

# 京都・嵐山における観光促進

市川ゼミ 2年

1119630281

大隈真珠

スイてます嵐山

今回私が取り上げるのは歴史ある寺院や建造物を多く有し、日本でも有数の観光地となっている京都・嵐山だ。渡月橋や竹林の道、保津川下りに太秦映画村など観光地を挙げればキリがないようにまで思える嵐山だが、例にもれずコロナ渦には国内外からの観光客数は激減した。そんな中で嵐山の5つの商店街からなる嵯峨嵐山おもてなしビジョン推進協議会が打ち出したキャンペーンは「スイてます嵐山」だ。「#竹林

#嵐山#人いない」、「人間よりサルの方が多しとか、久しぶり。」など自虐的なキャッチコピーによるPRや、一部店舗の景品を用意しての歓迎が功を奏し、主に国内からの観光客数の回復に貢献した。PRの通り有名な観光地を並ぶことなく楽しめることや、京都本来の閑静な街並みを味わえること、コロナ渦以前に問題視されていたマナーの悪い外国人がいないことも追い風となっているようだ。



## 京都観光快適度マップ

“3密”を避け、安心して観光してもらうために、京都市の観光オフィシャルサイト

の京都観光 Navi が提供しているのは「京都観光快適度マップ」だ。京都市内の観光地を7つのエリアに分け、日付や時間、天候を入力するだけで各地の混み具合を予測したデータを見ることができ、より多くの人が活用することで人の密集を避けることができ、感染を懸念する人々も安心して来場できるだろう。

このようにただ集客するだけでなく、感染リスクを極力下げる取り組みが今後は不可欠になっていくことが伺える。

(現在は緊急事態宣言下であることから、土日でもかなり少ない客足の予想となっている。)



## 感染症対策補助金

しかし、感染症対策のキャッシュレス導入やフェイスシールド、パーティション設置には少なくない費用が掛かる。それを支えられるのはやはり行政からの補助金だろう。京都市と京都市観光協会は観光客が利用する店舗等を有する中小企業を対象に最大10万円の補助金での助成を行った。申請には事業の規模等いくつかの条件が課されたが、その中の一つが「ウィズコロナ社会における市民と観光客の安心・安全の確保に向けたアドバイザーチーム」による助言を受けたことだった。補助金をばら撒いて終わりではなく、クラスターの発生を避けて日本有数の観光地を守っていこうという慎重な意図が感じられる。

## まとめ

日本の観光地代表ともいえる京都では様々な視点から観光客を取り戻そうと対策がとられていた。闇雲に人を集めてしまうのではなく密を避けることや、この機会に京都のあるべき姿を維持していくことも考えていくべきだろう。

## 参考リンク

京都新聞 2020年2月15日 <https://www.kyoto-np.co.jp/articles/-/160656>

京都観光オフィシャルサイト <https://ja.kyoto.travel/comfort/>

京都市観光協会 <https://www.kyokanko.or.jp/news/20200819/>